

2026 年 4 月 大学院商学研究科 修士課程入学試験問題 専門科目

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙および解答用紙に触れないこと。
2. 問題用紙および解答用紙はそれぞれ別の用紙になっている。
3. 9 題のうち 2 題を選択すること。
4. 少なくとも 1 題は、自分の志望する研究指導の分野に最も近いと判断される問題を選択すること。
5. 専門科目の答案は二次試験の参考資料とするので、それを踏まえて問題を選択すること。
6. 試験開始の合図後、解答用紙左上の指定された□内に選択した問題番号を、所定の欄に受験番号、氏名を次の数字記入例にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。また、所定の欄以外に受験番号および氏名を記入しないこと。

【数字記入例】

正	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	C	1	2	3	4	5	6	7	8	9
誤	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
					↑			7		9

7. 解答は、黒色または青色のインクのペンまたはボールペンを使用し、すべて解答用紙の所定の欄に**最大 1 0 0 0 字程度**（グラフまたは図を用いる場合の文字数は含めない）で書くこと。消しゴムで文字を消すことができるインクのペンまたはボールペンは使用しないこと。鉛筆書きは不可。
8. 解答用紙の裏面に記入してはならない。
9. 修正液または修正テープの使用は認める。
10. 筆記用具、修正液および修正テープは貸与しない。
11. 問題用紙および解答用紙は原則として取り替えない。
12. 解答は必ず 1 問につき 1 枚の解答用紙を使用すること

以 上

2026 年 4 月 大学院商学研究科
修士課程入学試験問題 専門科目

〔設問 1〕 経営専修 経営領域

以下のすべての問いに答えよ。

1. 企業におけるイノベーションの源泉として、企業内の個人の創造性がある。個人の創造性を促進する企業での報酬体系について、外発的動機付けと内発的動機付けを定義した上で、それらに関連する形で説明せよ。
2. 企業の事業戦略のうち、製品差別化戦略が企業の経済価値の創出につながる関係性を説明した上で、その関係性を強める市場の特性をひとつあげ、そのメカニズムを説明せよ。
3. 経営者のパーソナリティが自社の企業行動に影響を与えるメカニズムについて、限定合理性を定義した上で、それに関連する形で説明せよ。

〔設問 2〕 マーケティング・国際ビジネス専修 マーケティング領域

以下の全ての設問に答えなさい。

- (1) チャンネル・メンバーの持つパワーの代表的なタイプを 4 つ以上取り上げ、それぞれについて説明しなさい。
- (2) マーケティング・コミュニケーション予算の決定方法について、代表的な考え方や方針を 4 つ以上説明しなさい。
- (3) 類似化ポイントについて説明したうえで、競合企業との競争を進めるうえで、類似化ポイントが果たす役割を具体的に述べなさい。

〔設問3〕 マーケティング・国際ビジネス専修 国際ビジネス領域

以下のすべての設問に答えなさい。

1. 多国籍企業が業績を向上させていくうえで直面するパラドクスを2つの次元で説明しなさい。

2. そのパラドクスの2次元関係について次の4つの図を示しなさい。

- (1) 産業（業種）毎にどこに位置づけられるかを例示した図
- (2) 企業毎にどこに位置づけられるかを例示した図
- (3) 機能（ファンクション）毎にどこに位置づけられるかを例示した図
- (4) タスク毎にどこに位置づけられるかを例示した図

3. なぜ（1）各産業、（2）各企業、（3）各機能、（4）各タスクが図示したところに位置づけられるのかの根拠を具体的な例を用いて説明しなさい。

〔設問 4〕 金融・保険専修 金融領域

以下のすべての設問に答えなさい。

問 1 資本資産価格モデルによると、リスク資産 j の期待リターン $E[r_j]$ は、無リスク資産の利子率 r_f 、市場ポートフォリオ m の期待リターン $E[r_m]$ 、および、資産 j のベータ β_j により、 $E[r_j] = r_f + \beta_j (E[r_m] - r_f)$ で与えられる。 $E[r_m]$ が r_f より大きい市場では、リスク資産 j の期待リターンはベータが大きいと高くなり、この関係式は、 β_j で表される資産のリスク量がリターンとトレードオフの関係にあることを示す。一方で、リスク量を資産のリターンの分散や標準偏差で測り、これとリターンのトレードオフ関係について言及される場合もあるが、 β_j はリターンの分散や標準偏差とは一般には一致しない。これらの違いはどこから生じているか、説明しなさい。

問 2 予想されていなかった配当増加の発表は、業績好調を示すポジティブなメッセージと考えられる一方で、有望な投資先をもたないことを示すネガティブなメッセージとも考えられる。投資計画や設備投資状況については公表どおりであり、アクティビスト等からこの企業に対する増配要求はなかった、という二点を仮定するとき、追加的にどのような情報があれば、「予想外の配当増」をポジティブに受け止めるのがより適切となりえるか。また、追加的にどのような情報があれば、「予想外の配当増」をネガティブに受け止めるのがより適切となりえるか。それぞれ、説明しなさい。

問 3 ブラック＝ショールズ・オプション価格公式によるコールオプション価格 C は、原資産価格 S 、数値 Δ 、および、安全資産の借入れ B により、 $C = \Delta S + B$ で与えられる。これはコールオプションが原資産と安全資産のポートフォリオで複製できることを示しており、その意味でコールは余剰資産(redundant assets)と言える。この価格モデルやその解釈とコールオプションの取引が活発に行われている現実とを整合的に理解するには、どのように考えれば良いか、説明しなさい。

〔設問5〕 金融・保険専修 保険領域

以下のすべての問いに答えてください。

(1) 保険制度の弊害について、以下のキーワードを用いて説明せよ。

キーワード（すべて使用すること）

- ・モラル・ハザード
- ・逆選択
- ・情報の非対称性

(2) いわゆる家計分野保険（自動車保険、火災保険、生命保険など）の保険契約における告知義務について、その意義、履行の方法、違反の効果を説明せよ。なお、海上保険等に言及する必要はない。

(3) 下記のいずれかからテーマを一つ選び、その概要と意義を説明せよ。

テーマ（一つを選択し、その番号を明記すること）

- ①ART（代替的リスク移転）
- ②再保険
- ③保険契約者保護機構

〔設問6〕 会計専修 財務会計領域

以下のすべての設問に答えなさい。解答にあたっては、解答用紙に設問番号(1. 2. (1)①②(2))を記載すること。

1. 連結の範囲に含まれる子会社と関連会社について、それらの判定基準をそれぞれ簡潔に説明しなさい。解答にあたっては、①子会社と②関連会社に分けて記載すること。本問題においては、会計ルールで規定されている事項のみを記載し、自分自身の考えは記載しないこと。

2. 以下について、自分自身の考えを記載しなさい。

(1)資産として認識された「のれん」について、その当初認識後の会計処理方法として、以下の2つの方法に係る自分自身の考えを記載しなさい。

- ①一定期間にわたり償却を行い、減損の兆候がある場合に減損テストを行う方法
- ②償却を行わず、每期、減損テストを行う方法

(2)日本の会計ルールにおいて、「のれん」の当初認識後の会計処理方法として、どのような会計処理方法が採用されるべきか、自分自身の考えを記載しなさい。なお、本問題では、上記(1)における①や②の方法以外の会計処理方法を示しても構わない。

【設問 7】 会計専修 管理会計領域

以下の全ての問に答えなさい。

問 1 投資プロジェクトの経済性計算に関して以下の (1) (2) に答えなさい。

(1) いずれも初期投資額を 1,000 とする投資案 A と投資案 B がある。各投資案が生み出すネット・キャッシュ・インフローは、投資案 A が 1 年目 30、2 年目 1,134、投資案 B が 1 年目 980、2 年目 132 である。資本コストは 5% であるとする。それぞれの投資案の (a) 正味現在価値と (b) 内部利益率を求めなさい。

資料：現価係数表

	5%	6%	7%	8%	9%
1 年	0.9524	0.9434	0.9346	0.9259	0.9174
2 年	0.9070	0.8900	0.8734	0.8573	0.8417

(2) 投資案 A と投資案 B のいずれかしか採択できないとき、(1) の結果に基づくといずれを採択すべきか。どのような観点から意思決定を行うのが望ましいか理由とともに答えなさい。

問 2 分権組織の管理会計に関して以下の (1) から (4) に答えなさい。

企業 X は製造部門と販売部門があり、製造部門が製造した製品を振替価格を付して販売部門に振り替え、販売部門は梱包して外部に販売している。製造部門の製造量を q_A 、販売部門の販売量を q_B とする。外部販売価格は製品 1 単位あたり 500 円である。製造部門の費用関数は $C(q_A) = 0.5q_A^2 + 50q_A - 10,000$ であり、販売部門の費用関数は $C(q_B) = 0.5q_B^2 + 40q_B - 7,500$ であるとする。製造量および販売量の決定権は各部門に委譲されており、各部門は部門利益を最大化するように q_A と q_B を決定する。なお中間製品市場は存在しないと仮定する。

(1) 企業 X の振替価格 (T) の均衡 (T^*) を求めなさい。

(2) T^* のもとでの各部門利益と全社利益を求めなさい。

(3) 結局、 T^* は (ア) 部門の (イ) 費用と一致することがわかる。空欄アとイに入る適切な語句を漢字で答えなさい。

(4) 現実には振替価格を (イ) 費用ではなく総原価、または総原価プラスマージンとすることも多い。そのメリットとデメリットを説明しなさい。

【設問 8】 理論・計量専修／公共政策・経済史専修 ミクロ経済学領域

以下の問いにすべて答えよ。

問 1. あなたはコンサルタントである。クライアントが新しい遊園地の開業を予定している。来場者は 1 日あたり子ども 50 人・大人 100 人と予測されている。また、各タイプの 1 人あたりの乗車回数（需要）は

$$\text{子ども} : x_C = 8 - p; \text{大人} : x_A = 14 - p$$

と想定される。ここで p は 1 回あたりの乗り物料金（単位：100 円/回）を表す。負の乗車回数は不可とし、乗り物 1 回の限界費用は 0 円/回、固定費は 1 日あたり 100,000 円とする。

クライアントから価格設定について質問されたあなたは、以下の各点についてどのように回答するか述べなさい。

- (1) 単一価格で利潤最大化を目指す場合、1 回あたり乗り物料金は何円か。
- (2) (1) で求めた価格設定の下で、1 日あたりの利潤は何円か。
- (3) (1) で求めた価格設定の下で、子どもの需要の価格弾力性と大人の需要の価格弾力性はそれぞれいくらになるか。両者の大小関係に基づくと、グループ別価格（タイプ別価格）を導入する場合に、どちらの価格を相対的に低く設定すべきと考えられるか（弾力性の値を根拠に説明しなさい）。
- (4) グループ別価格で利潤最大化を目指す場合、子どもの 1 回あたりの乗り物料金（子ども料金）と大人の 1 回あたり乗り物料金（大人料金）はそれぞれ何円か。
- (5) (4) で求めた価格設定の下で、1 日あたりの利潤は何円か。
- (6) 単一価格およびグループ別価格よりもさらに利潤を大きくできる価格・料金設定方法は存在するか。存在する場合は、その方法の下での 1 日あたりの利潤は何円か。

問 2. 問 1 の、単一価格とグループ別価格のそれぞれで、消費者余剰・生産者余剰・総余剰が 1 日あたり何円か求めなさい。さらに、両方式の総余剰を比較して社会的効率性を評価しなさい。また、消費者余剰と生産者余剰がどのように変化するかも簡単に述べなさい。

〔設問 9〕 理論・計量専修／公共政策・経済史専修 マクロ経済学領域

以下の1から5までの問題を全て解きなさい。

1. フィッシャーの2期間モデルによるマクロ経済を考える。代表的個人の労働賃金としての所得を w 、第1期の消費を c_1 、第2期の消費を c_2 、貯蓄を s 、資本価格としての利子率を r とする。この経済では、個人は第1期のみ働き、第1期分を消費し、残りを貯蓄し、第2期では、投資され資本となった貯蓄の元本と利子を全て消費する。 w と r は市場により外生的に決定され、所与とする。新古典派効用関数 $u(c_1, c_2)$ の下、予算制約式を含む効用最大化問題を提示し、最適解 (c_{1E}, c_{2E}, s_E) を導出しなさい。そして、横軸 c_1 、縦軸 c_2 の図において、最適点 $E(c_{1E}, c_{2E})$ を明示し、唯一の最適解の存在などについて、簡単に説明しなさい。
2. 問1と同じ経済を考える。効用関数が $u=c_1^\alpha c_2^{1-\alpha}$, $0 < \alpha < 1$ である場合、上記の最適消費問題を解き、 c_{1E} 、 c_{2E} 、 s_E を計算しなさい。計算の過程を必ず記述すること。
3. 問1のモデルを重複2世代による無期限最適化モデル(今期を t 年、次期を $t+1$ 年)に拡張する。代表的個人による労働量を一定($L(t+1)=L(t)=\underline{L}$)とし、GDP を $Y(t)$ とし、1次同次の新古典派生産関数 $Y(t)=F(L(t), K(t))$ の下、企業の利潤最大化問題を提示し、最適解を導出しなさい。1人当たり GDP と資本をそれぞれ、 $Y(t)/L(t)=y(t)$ と $K(t)/L(t)=k(t)$ と表すと、 y が k の関数($f(k)$)となり、 w と r がそれぞれ k の関数となることを示しなさい。 $s(t)$ が次期に予想される利子率($r_E(t+1)$)の非減少関数であることと、 $r_E(t+1)$ に対する合理的期待を仮定した上で、 k による最適動学経路を表す式を導出し、 $w(t)$ と $r(t+1)$ が内生的に決定されることを示しなさい。また、資本市場の均衡を表す式、および、財市場の均衡の三面等価を表す式も示しなさい。そして、横軸 $k(t)$ 、縦軸 $k(t+1)$ の図において、最適動学経路と定常点($k(t+1)=k(t)=k^*>0$)を明示し、この経済の経済成長やゼロでない定常点の唯一性や安定性などについて、簡単に説明しなさい。
4. 問3と同じ経済を考える。効用関数は問2と同じで、生産関数が $Y(t)=L(t)^\beta K(t)^{1-\beta}$, $0 < \beta < 1$ である場合、最適動学経路の式を求め、 $y(t)$ 、 $w(t)$ 、 $r(t)$ を $k(t)$ の関数として表しなさい。そして、定常点での s^* 、 k^* 、 y^* 、 w^* 、 r^* 、 S^* 、 K^* 、 Y^* 、 C^* を計算し、問3にある資本市場と財市場の均衡が成り立つことを確認しなさい。この数値例において、 $r_E(t+1)$ が $s(t)$ 決定に与える影響について、効用関数の特性により、簡単に説明しなさい。計算の過程を必ず記述すること。
5. 問3と同じ経済において、労働量が減少する場合($L(t+1)=L(t)(1-n)$, $0 < n < 1$)、その影響について、最適動学経路の図を用いて、簡単に説明しなさい。

—以上—



受験番号	
氏名	

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no text or other markings on the paper.



受 験 番 号	
氏 名	

[illegible]